

科目名	AutoCAD II						
科目名(英)	AutoCAD practice II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福光 春子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建材メーカー設計室にて建築・施設設計担当。今も実務に従事。		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	演習を通して、レイアウト空間での印刷スキルの習得及びCAD操作の正確さ、図面の読図能力、応用力の習得を図る						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。	
	○	○				授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。	
	○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。	
	○	○				構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。	
	○	○				授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	2	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図②			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	3	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	4	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図②			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	5	鉄筋コンクリート住宅 断面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	6	鉄筋コンクリート住宅 断面図②			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	7	鉄筋コンクリート住宅 立面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	8	鉄筋コンクリート住宅 立面図②			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	9	鉄筋コンクリート住宅 配置図、レイアウト空間での印刷			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	10	鉄骨造住宅 1階平面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	11	鉄骨造住宅 1階平面図②、鉄骨造住宅 3階平面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	12	鉄骨造住宅 2階平面図②			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	13	鉄骨造住宅 断面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	14	鉄骨造住宅 断面図②、鉄骨造住宅 立面図①			オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)		
	15	鉄骨造住宅 立面図②、印刷			授業内容の復習 データ提出		
評価方法	(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出状況	◎	◎				50%
	練習問題(スピードと正確さ)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。						

科目名	3D・CAD II						
科目名(英)	3D・CAD (ArchiCad)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山崎 孝		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	2DCADを基本に、3DCADの基本操作を学ぶ。図面模写を繰り返し実力をつけ、オリジナルプランから仮想空間がデザインできるようになる。また2人でプラン人手法を組み立てられるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					A2D作図方法の操作 復習し、問題なく基本操作ができる。	
	○					3D作図・プランニング3D作図の基本操作が問題なくできる。	
	○					3D作図作業課題図面を用いて3D作図を完成させることができる	
	○					プランニング 仮想施主であるパートナーとの3D作図を完成させることができる	
テキスト・教材 参考図書	GRAFHISOFT Archi Cad-(Magic1)+オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	3D作図・プランニング 二人一組によるプランニング				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	2	3D作図・プランニング 平面プランの確認、まとめ					
	3	3D作図・プランニング 二人一組によるプランニング					
	4	3D作図・プランニング 平面プランの質疑応答					
	5	3D作図・プランニング 二人一組によるプランニング					
	6	3D作図・プランニング オリジナルプラン3D作図 質疑応答					
	7	3D作図・プランニング 二人一組によるプランニング					
	8	3D作図・プランニング オリジナルプラン3D作図 質疑応答					
	9	3D作図・プランニングオリジナルプラン3D作図					
	10	3D作図・プランニング質疑応答					
	11	3D作図3D作図・プランニングプランニング仮想施主であるパートナーと相互のプランチェック					
	12	3D作図3D作図・プランニングプランニングプラン修正					
	13	3D作図・プランニング 仮想施主であるパートナーと相互のプランチェック					
	14	3D作図・プランニング プラン修正					
15	3D作図・プランニング 仮想施主であるパートナーへの相互のプランチェック						
評価方法	2課題の提出・内容 以上の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プレゼンボード前半課題提出		◎				50%
	プレゼンボード後半課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築士対策(製図)					
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	今泉 清太	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	2級建築士2次対策レベルに関する、木造建築構造の基礎知識から応用力を身に着ける。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	△	○				方眼紙を読む力がある(m ² 計算や畳数)が瞬時計算ができる。
	○	○				木造建築の課題の特徴、出題傾向が説明できる。
	○	○				各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称が答えられる。
		○				建築士2次試験問題を限られた時間で描ける
テキスト・教材 参考図書	総合資格 2級建築士 設計製図 テキスト					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	共通項目 設計製図試験の概要 試験の制度 特徴とポイント			(2級建築士試験) 設計製図テキスト 自己採点表 配布、事前確認、減点項目を知っておく。	
	2	共通項目 製図を始める前に 製図用具、用紙のセット			製図道具、用紙	
	3	共通項目 設計製図試験の概要 最近の出題傾向 関連法規			高齢者対応について 建築基準法法令集持参確認	
	4	木造 木造専用住宅 構造計画、配置計画と外部動線、平面計画			表現方法テキストで確認	
	5	木造 木造専用住宅 ケーススタディ 課題文の読み取り			表現方法テキストで確認	
	6	木造 要求図面 1階平面図兼配置図と2階平面図			表現方法テキストで確認	
	7	木造 要求図面 立面図 断面図			表現方法テキストで確認	
	8	木造 要求図面 2階床伏図兼1階小屋伏図			表現方法テキストで確認	
	9	木造 要求図面 部分詳細図			表現方法テキストで確認	
	10	チャレンジ課題① 課題読み合わせ ポイントライン引き			色鉛筆 蛍光ペン準備	
	11	チャレンジ課題① エスキース			色鉛筆 蛍光ペン準備	
	12	チャレンジ課題① エスキース			色鉛筆 蛍光ペン準備	
	13	チャレンジ課題① 作図演習			表現方法テキストで確認	
	14	チャレンジ課題① 作図演習			表現方法テキストで確認	
	15	チャレンジ課題① 作図演習			表現方法テキストで確認	
	16	チャレンジ課題① 作図演習			表現方法テキストで確認	
	17	チャレンジ課題① 作図演習、解説			解説復習	
	18	チャレンジ課題② エスキース			表現方法テキストで確認	
	19	チャレンジ課題② エスキース			表現方法テキストで確認	
	20	チャレンジ課題② 作図演習			表現方法テキストで確認	
	21	チャレンジ課題② 作図演習			表現方法テキストで確認	
22	チャレンジ課題② 作図演習			表現方法テキストで確認		

	23	チャレンジ課題②	作図演習				表現方法テキストで確認
	24	チャレンジ課題②	作図演習、解説				解説復習
	25	チャレンジ課題③	エスキース				表現方法テキストで確認
	26	チャレンジ課題③	エスキース				表現方法テキストで確認
	27	チャレンジ課題③	作図演習				表現方法テキストで確認
	28	チャレンジ課題③	作図演習				表現方法テキストで確認
	29	チャレンジ課題③	作図演習				表現方法テキストで確認
	30	チャレンジ課題③	作図演習、解説				解説復習
評価方法	(1)課題の提出・課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	チャレンジ課題	○	◎				100%
履修上の注意	出席率60%未満者には単位を付与しない。						

科目名	建築士対策（計画）						
科目名(英)	Architectural Planning						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行 美枝		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。気象 換気 伝熱 日照 音響 色彩 住宅 商業建築 公共建築 給排水設備 電気・照明設備 消火・防災設備						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				2級建築士出題範囲である 伝熱計算、露点温度等のグラフが読める。	
	○	○				日照・日射・採光の図形を見て、出題問題の正解が導き出せる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。	
	○	○				住宅から公共建築物まで、特徴や都市においての役割など、正解を選択できる。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築計画 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 気候					
	2	第2章 伝熱・結露			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第3章 日照・日射・採光 第4章 音響			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第5章 色彩			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第6章 環境工学融合			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第7章 空気調和設備			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第8章 給水設備			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第9章 排水衛生設備			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第10章 電気・照明設備			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第11章 消火・防災設備			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第12章 設備融合			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第13章 建築史 第14章 計画一般			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第15章 住宅			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第16章 商業建築 第17章 公共建築			復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	15	第18章 地域計画 第19章 各論融合			今までの復習プリントで復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				90%
復習問題	○	○				10%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築士対策（法規）						
科目名(英)	Building regulations						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	今泉 清太		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	学科Ⅱで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。建築基準法 バリアフリー法 耐震改修法 建築士法 都市計画法 品確法						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				法令集の準備が完了している。使用方法を理解している。	
	○	○				面積・高さ等の算定方法 構造強度 防火関係 防火構造等 概要が説明できる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式について正解を選択できる。	
	○	○				法令集を使用して、各章の答えを導かせることができる。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築法規 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 総則 用語の定義 面積・高さ等の算定方法					
	2	第1章 総則 確認済証の交付				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	3	第1章 総則 手続き等(中間検査等)				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	4	第2章 一般構造等 一般構造 建築設備				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	5	第3章 構造強度				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	6	第4章 防火関係 防火構造等 法22条区域内の建築物				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	7	第4章 防火関係 耐火・準耐火建築物 防火・準防火地域				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	8	第4章 防火関係 防火区画・間仕切壁 内装制限等				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	9	第5章 都市計画区域等の制限 道路・壁面線				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	10	第5章 都市計画区域等の制限 用途地域				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	11	第5章 都市計画区域等の制限 容積率・建ぺい率				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	12	第5章 都市計画区域等の制限 高さの制限 日影規制				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	13	第6章 雑則				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	14	第7章 その他の関係法令 バリアフリー法 耐震改修促進法				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	15	第7章 その他の関係法令 建築士法 都市計画法 その他				今までの復習プリントで復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築士対策（構造）						
科目名(英)	Building construction						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所で構造設計に従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	学科Ⅲで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。構造物と力 静定構造物の応力 トラス 断面の性質 座屈 荷重 木構造 鉄筋コンクリート構造 鉄骨構造 特殊構造 建築材料 概要。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
	○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築構造 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 構造物と力			第1章テキスト内の問題を事前に回答しておく		
	2	第2章 静定構造物の応力			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第3章 特定トラスの応力			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第4章 断面の性質			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第5章 応力度と許容応力度			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第6章 変形と不静定構造物			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第7章 荷重・外力			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第8章 地盤と基礎構造			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第9章 木構造			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第10章 鉄筋コンクリート構造			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第11章 鉄骨構造			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第12章 その他の構造			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第13章 構造設計			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第14章 建築材料			復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング		
15	第14章 建築材料			今までの内容を復習する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%	
履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件						

科目名	建築士対策（施工）						
科目名(英)	Building Construction						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	合建設会社にて、主に施工管理職として勤		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。工事監理 施工業務 仮設工事 鉄筋工事 鉄骨工事 木工事 設備工事 建築積算 測量 工事契約						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
	○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。	
テキスト・教材 参考図書	日建学院2級建築士学科受験テキスト 学科IV施工						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 工事契約					
	2	第2章 工事監理・施工業務				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	3	第3章 地盤調査・測量 第4章 仮設工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	4	第5章 土工事・基礎地業工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	5	第6章 鉄筋コンクリート工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	6	第7章 鉄骨工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	7	第8章 コンクリートブロック工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	8	第9章 木工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	9	第10章 防水・屋根工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	10	第11章 左官工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	11	第12章 タイル・張石工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	12	第13章 塗装工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	13	第14章 建具・ガラス工事 第15章 内装・断熱工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	14	第16章 ユニット工事 第17章 設備工事				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	15	第18章 用語・機械 第19章積算				今までの内容を復習する	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
復習問題	○	○				20%	
履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件						

科目名	専攻ゼミⅡA(リフォーム)					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	前期の授業の学習内容を踏まえ、後期の授業では実際の木造住宅のリフォーム設計を行いリフォームについて学んでいく。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					リフォーム全体の概要説明ができる
	○					木造建築物の構造について分析することが出来る
	○					木造建築物のリフォーム設計計画ができる
	○					設計プランのプレゼンテーションが出来る
テキスト・教材 参考図書	適宜プリント配付					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ガイダンス 課題の説明(木造建築物)			各自、資料集めを実施	
	2	課題分析・資料集め			各自、資料集めを実施	
	3	エスキース(構造の確認・コンセプト設定)			エスキースの作成を行うこと	
	4	エスキース(ラフ図面)			エスキースの作成を行うこと	
	5	エスキース(ラフ図面) ラフ図面提出			エスキースの作成を行うこと	
	6	ラフ図面・コンセプトの教員確認			エスキースの作成を行うこと	
	7	6回目を受けてのラフ図面・コンセプトの修正			エスキースの作成を行うこと	
	8	ラフ図面・コンセプトの教員確認			エスキースの作成を行うこと	
	9	図面作成 タイトル・コンセプト			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	10	図面作成 平面図			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	11	図面作成 立面図			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	12	図面作成 内観パース 構図検討			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	13	図面作成 内観パース① 下書き			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	14	図面作成 内観パース① ペン入れ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	15	図面作成 内観パース① 着色			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	16	図面作成 内観パース② 下書き			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	17	図面作成 内観パース② ペン入れ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	18	図面作成 内観パース② 着色			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	19	模型作成 部材枠取り			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	20	模型作成 部材切抜			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
	21	模型作成 部材組合せ			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	
22	模型作成 細部作成			プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと		

	23	模型作成 細部作成	プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと				
	24	模型作成 細部作成	プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと				
	25	模型作成 部分修正	プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと				
	26	模型作成 仕上げ	プレゼンテーションの構成を考慮しておくこと				
	27	プレゼンテーションデータ作成	プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事				
	28	課題発表シュミレーション	プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事				
	29	発表と講評	この課題の振り返りをしていくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振り返りをしていくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席率60%未満者には単位を付与しない。						

科目名	専攻ゼミⅡB(設計)(必修選択)					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	1年生で学んだ建築知識を基礎に調査・企画・設計の自ら行い、CADやillustrator&Photoshopで製 図スキルを磨き模型制作とプレゼンテーション能力を学ぶ					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					プランニング・デザイン・コンセプトをプレゼンできる
	○					数多くの情報を収集し必要な情報のみを分析しオリジナルのプランニングにまとめる
	○					現地調査・事例調査を現地に行き自分の目で見て実行できる
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	課題説明・スケジュール説明			各自、資料集めを実施	
	2	資料収集・個別コンセプト・エスキース			各自、資料集めを実施	
	3	資料収集・個別コンセプト・エスキース			各自、資料集めを実施	
	4	資料収集・個別コンセプト・エスキース			各自、資料集めを実施	
	5	エスキースプレゼン			エスキースの作成を行うこと	
	6	エスキース修正			エスキースの作成を行うこと	
	7	エスキース修正・図面制作			エスキースの作成を行うこと	
	8	図面制作			エスキースの作成を行うこと	
	9	図面制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	10	図面制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	11	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	12	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	13	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	14	中間発表			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	15	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	16	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	17	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	18	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	19	図面制作・模型制作			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	20	模型仕上・写真撮影			プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	21	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
22	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作			プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと		

	23	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	24	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	25	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	26	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	27	総仕上げ	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	28	課題発表シュミレーション	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	29	発表と講評	この課題の振り返りをしておくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振り返りをしておくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席率60%未満者には単位を付与しない。						

科目名	卒業制作					
科目名(英)	Architectural Diploma design of Housing and Urban Planning majors					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中島 潤	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計を担当	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	今まで学んできた建築学・計画学の積み重ねの集大成として位置付けている。社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業である。また指導に際しては、その一連の作業が社会で仕事を遂行する訓練として位置付けており、基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)から評価の対象とする。また、自分の意思表現でもあるプレゼンテーションにおいては、厳しく指導を進めることとする。人に伝えるとは何か、また、建築が解決できることとは何か、常に物事の本質に向かう姿勢を大切に指導を行うものとする。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。
		○				建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面、模型を作成しまとめることができる。
		○				客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。
		○				計画案について魅力的に発表することができる。
	○				他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:なし, 参考図書:建築設計資料集成、新建築および各種建築書籍資料等					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。	
	2	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説				
	3	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				
	4	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				
	5	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	6	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	7	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	8	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	9	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。	
	10	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)				
	11	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。	
	12	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	13	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	14	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	15	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	16	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	17	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	18	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)				
	19	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
20	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					

	21	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)	スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。				
	22	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	23	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	24	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	25	発表:最終発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)	講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。				
	26	発表:最終発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)					
	27	最終成果手直し					
	28	最終成果手直し					
29	最終成果手直し+最終提出						
30	最終成果手直し+最終提出						
評価方法	課題作品、エスキスチェック、発表を、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品	○	◎				80%
	エスキスチェック	○	○				10%
	発表	○	○				10%
履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件						

科目名	BIM 専攻ⅡB(選択)						
科目名(英)	Building Information ModelingⅡB						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当		
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・建築学科(昼) 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。 各用途の建築計画的理解と表現。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			ゾーンツールを使ってポリウムスタディができる。	
			○			BIMワークフローにより効率よく設計ができる。	
		○	○			BIMを活用したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	課題:複合ビル「制作②」				情報、資料収集を行うこと	
	2	課題:複合ビル「制作③」				情報、資料収集を行うこと	
	3	課題中間報告(発表)				発表資料の確認を行うこと	
	4	課題:複合ビル「制作④」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	5	課題:複合ビル「制作⑤」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	6	課題:複合ビル「制作⑥」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	7	課題:複合ビル「制作⑦」				必要提出資料の確認を行うこと	
	8	課題プレゼンテーション(発表)「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎	○			50%
	課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						